本山町井窪のカヤについて

カヤは本州（岩手県以南）・四国・九州（屋久島まで）、朝鮮に分布する常緑高木で、主として西日本に普通とされる[1]が、四国四県では個体数は多くない[2]。高知県では山地の暖温帯～推移帯（標高 300ｍ～900ｍ）に分布し、同科のイチイよりも暖地に生育し、シイ林域からモミ・ツガ林域にかけて広い範囲に散在する。谷筋などの急傾斜地にも生育し、特に石灰岩地に多く見られる。樹齢が長く、有用樹として各地で保護され、巨樹、古木が多く、国や自治体で天然記念物に指定されているものが多い。材の木理は密で保存性が高く、水湿に耐えるので造船、彫刻、櫛、数珠などの器具材や建築材に用いられ、古来より最上の碁盤として賞用され、種子の油は食用とされた[1・3]。

カヤの巨木を環境省 DB で見ると、最大のものは福島県の幹周 870 ㎝（福島県指定天然記念物）をはじめとして、幹周 600 ㎝以上の巨木は本州を中心に 35 本が散在し、群馬県、埼玉県、愛知県、静岡県に各 1 件国指定があり、都県指定が 14 件、市町村指定 7 件であった。500 ㎝以上 600 ㎝未満の木は全国に 114 本が登録されているが、四国では松山市指定の 510 ㎝の木があるのみであった[5・6]。

高知県では土佐の名木（1971）に 7 本のカヤが名木一覧に掲載され、うち 5 本は環境省 DB と共通で、大川村横滝のカヤが幹周 485 ㎝で最大であった.

したがって、当該木の幹周 516 ㎝は黒岩氏が述べているように四国最大級であり、高知県を代表するカヤの名木、巨樹として天然記念物にふさわしいものといえる。

[1]倉田　悟．1964．原色日本林業樹木図鑑第 1 巻．地球出版（株）
[2]高知県・財団法人牧野記念財団．2009．高知県植物誌.
[3]中澤　保．2023．四国の野生を主とした樹木[解説編].中澤　保.
[4]全国林業改良普及協会（編）．1971．写真集「土佐の名木」.高知県森林組合連合会.
[5]巨樹・巨木林データベース．kyoju.biodic.go.jp.
[6]巨木学．kyobokugaku.hippy.jp.



